

第2回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会 会議録

日 時 : 令和7年1月20日(月) 15:00~16:30

議事記録

○尼崎市みどりのまちづくり計画の進捗管理について

・資料2-①について

委員 子供広場の検証はどのような形で行う予定なのか。

事務局 公園の機能分担について、小学校区単位で取り組む予定としている。モデル地区のエリア内の公園だけではなく子供広場についても同時並行で機能の見直しを進める予定であるが、最初にどこをモデル地区にするか選定に難航している。

委員 モデル地区に難航している理由はわかるか。

事務局 尼崎市の大きな課題としてファミリー世帯の定住というテーマがあり、その対象が阪急沿線の一部と阪神沿線の一部と対象地区が絞り込まれ、対象地区内でモデル地区を設定するという条件が新たに出てきた。当初想定していたエリアから外れたため、どこにするのか候補をピックアップしているところである。ファミリー世帯が少ないところにファミリー世帯を呼び込むためにリニューアルを考えてほしいという要望が市内部から出ている。

委員 近隣他都市で、小学校区単位で同じようなことをやろうとしてモデル地区を2地区選ぼうとした。同じような視点を示しこのようなデータを用いて選びましたと言ったところ、それはおかしい、実情とあっていない、市からこうしろと言われてるように聞こえるとお叱りを受けた。また、モデル地区とは何か、モデル地区には力を入れ予算をつけるが、ほかの地区は予算がつかないのかといったお叱りもあり、調整が難しい状況にある。

そこで、モデル地区についてはこちらから選ぶのではなく挙手性に変えた。ここでやりたいと言っている地区に変更して今再調整中である。

・資料2-②について

委員 実績の赤線がないが、令和6年度の取組はまだ始まっていないのか。

事務局 既存の取組である遊具の更新などは粛々と進めている。DX化のところは、パークフルというアプリケーションで1ha以上の公園については基礎的な情報と、四季折々の写真の掲載ぐらひは着手している。緑化公園協会に手伝っていただきながら情報発信している。

委員 新しいみどり計画では「識る」というのが大きなテーマとなっているので、アプリで誰でもわかりやすく、チラシが届かないとわからないということがないような取組である。

委員 民間連携(Park-PFI制度)などによる公園の新たな価値の創造に繋がるような公園マネジメントについて、阪神球場ができた小田南公園や阪神尼崎駅前の中央

公園はどのような制度なのか。

- 事務局 小田南公園は負担つき寄付という事業スキームでやっている。
- 事務局 中央公園は都市公園リノベーション協定制度を用いており、ほぼ Park-PFI 制度である。
- 事務局 レストランとカフェが公園の中にでき、阪神電鉄、阪神グループとリノベーション協定を締結して連携して事業を進めている。
- 委員 今まで公園は公共が作り、管理し、もっと使ってくださって言っていたが、それを民間が一部の施設を作り、収益を上げて公園をよくすることも協力するというのが Park-PFI 制度だが、似たような官民の協定に基づいて、市民がリノベーションをお手伝いして、利活用もお手伝いするというようなことが、阪神尼崎駅前で起こっている。
- 委員 それは、いわゆる大規模公園を前提にやっていくのか。この9か所をターゲットとして進めていくのか。
- 事務局 そうである。やはり民間資本を入れて一定の整備をし、もしくはその収益を維持管理に充てるという取組なので、ある程度広域から人が来るような場所でないといけない。
- 委員 大井戸公園の北図書館をつくるという話はこのことなのか。
- 事務局 Park-PFI 制度を使うか不透明だが、官民連携で取り組む方向で今検討している。図書館自体は Park-PFI ではないだろうが、図書館が公園の中に設置されるので、連動しながら公園もリニューアルできればと考えている。
- 委員 数をやることよりも計画期間の中で何か変わることの方が大事で、変わり方で評価、進行管理をするということが大事である。
- 委員 DX化はどこの自治体も苦勞する。市民になかなか伝わらない。
- 事務局 今、紙で保管している都市公園台帳をデータベース化して一元管理していこうと取り組んでいる。ただ、予算もかかることなのでシステムを入れる方がいいのかという議論が煮詰まっていないため、まずはペーパーレス化として取り組んでいる。
- 委員 公園を市民に使っていただくという部分でいうとオンライン申請が市民にはわかりやすいかと思う。
- 事務局 阪神尼崎駅前の中央公園について、利用申請が非常に多い公園なので、指定管理者を募るときの条件でオンライン申請を付けた。
- 委員 出屋敷の方もテスト的にやっていなかったか。
- 事務局 出屋敷駅前も北側も南側も直営だがやっている。ただ、利用頻度が全然違う。中央公園は毎日のように申請があるが、出屋敷は年数回程度である。
- 委員 年間通じて自治会の方、キッチンカーの方、色々な方が簡単に利用できるようにハードルを下げることは非常に大事なことである。
- 委員 いつも利用している公園は割と小さな公園だが、アジサイを植えてアジサイ祭りをしたり、餅つきや防災訓練をしたり、色々なことで利用している。

- 委員 DX でも紙でも申請の手間を少なくする、アプリでやりやすくするということがあるが、申請回数を減らすとか、年間で大体決まっていることは年中行事的な感じで一括申請したら済むとかでもいいのでは。
- 委員 何かすごいことをすることだけがリノベーションではない。特に身近な公園は引き算のリノベーションである。例えば施設がなく、木も大きなものしかなく、下が少し硬い舗装でキッチンカーが入りやすくなり、電源が完備されている。緑豊かな公園だけではないということを含めてリノベーションされていくことなので、そういった話し合いが地域で起こればいい。ある団体とかある地域がずっと年間通して活発に使用しているならば、手続きを簡略化できるのではないかな。
- 委員 小さな公園でも学校の近くの公園であれば体験学習に使える。体験学習をしている公園は上坂部西公園や尼崎の森中央緑地など大きな公園ばかりである。小さい公園でも樹種を増やして観察会ができるようにすれば学校の利用が増え、利用価値が出てくるのではないかな。
- 事務局 身近な公園の機能分担は小学校区単位で進めていきたいので、小学校の関係の、先生、PTA などの話も聞きながら進めていく。学校近くの公園は環境学習に限らず課外授業にも使えるのはあり得る話だと思っている。
- 委員 公園は小学校や公民館に隣接させてつくるというのが昭和初期頃の理念であったが、それに近いことはできそうである。学校に限らず特養や病院、子ども館などに隣接しているところは周りの施設と一緒に使えるようなということは地域の意見として出てきたらいいのではないかなと思っている。そのような社会課題対応型なら交付金も付きやすいと思うので、予算も取りやすいと思う。
- 委員 都市公園台帳のデジタル化だが、実際の業務で紙だとよくないと感じられるところはないのか。
- 事務局 自然発生的な木や台風で倒れた木の撤去後の処理などは図面に落とせていないことがあるので、管理上の絵で示している図面と数字で表している台帳本体とが合致するような形を取りたい。市としては管理データとして使用できるし、市民からは遊具の検索などに使用できるのでいいのだが、元データの修正等の予算関係の調査も必要となるので、ちょっとうまくいっていない。
- 委員 ベンチがいつ設置されたか等のデータがあった方が、今ここをした方がいいとかアプリを使えば一目でわかることもあるので、相当手間が省けたり見落としも防げたりするのでなんとかやってもらいたい。
- 事務局 維持管理台帳が格上げで都市公園台帳になっているようなものを目指すと、お互い使い勝手がいいものになるのではと思っている。
- 委員 社会課題対応型都市公園機能向上促進事業のテーマの中に、インクルーシブ、DX、官民連携とあるので、市民にも使いやすくみんなで公園を楽しくしていくという趣旨ではばっちり合うような気がするので、予算確保ができればと思う。

- 委員 現在はこういった段階なのか。
- 事務局 どの路線にどの樹種が植栽しているかはわかるが、路線の幅員など優先順位などをどう決めていけばよいか現在検討段階である。
- 委員 街路樹を撤去した後の木の処分は、基本的に焼却しているのか。
- 事務局 再資源化できるところに持ち出して、幹はウッドチップにしている。枝葉は焼却処分にしている。
- 委員 例えば、バイオネストという落葉を堆肥にする取組をされている人を最近よく聞くが、対象の街路樹の近くの公園の一角にバイオネストを設置して、学校の環境教育や周辺住民の方の協力でできればすばらしいと思った。そのような仕組みづくりができればいい。
- 事務局 落葉の堆肥化は一部の指定管理者が入っている公園で取り組んでいる事例はあるが、市街地の中で虫の問題等もあるので難しい部分もある。
- 委員 尼崎も昭和の時代ほど汚れておらず、尼崎のイメージを変えるためにもいいと思う。道路際の街路樹の再利用というのはいいかもしれない。ただ、出る量がすごいので挙手性で希望者を募り、やってみてもいいかもしれない。こんなことができるということを知っていただくための活動として何かあるかもしれない。
- 委員 西武庫公園にはたくさんの樹木があり広い公園だから、相当な葉がある。西武庫公園には花を植える分区園があるので、そういうところで使ってもらうようにはできないのか。
- 委員 緑化公園協会ですら以前にそのような取組をしていたが、葉と枝で堆肥になる時間が違うので、それを分ける手間がかかり中々本格的に進められず頓挫してしまった経緯がある。マンパワーが充実しないと難しい。
- 委員 もう一つは、21世紀の森にウッドチップパーを置いているが、21世紀の森では他の場所の植物を混ぜてはいけないのでその間伐材で実施して再利用しているが、なぜそこで使用しているのかというと、小さく砕くのにもものすごい騒音が発生する。環境基準に引っかかってしまうのであそこに置いている。肥料の臭いの問題もあるので、できる場所と手のかかることをクリアしていくことが難しい。
- 委員 世界の街路樹計画を見ていると、どこも街路樹の循環についてちゃんと書かれている。できるだけ大きくて健全で影をつくってくれる状態を長くキープするが、予防的に伐採する場合、見た目ボロボロに見えないが（幹が空洞化して）中がスカスカの時もあるので、撤去することに理解していただく必要がある。また、そういう枝葉について行政がどこかで処分しなくても、市民で使いたい人が現れ始めるのではないかと思う。
- 委員 街路樹の整理についてどのような方針でやっているのか。
- 事務局 歩道の安全性が優先度を決める際に重要な要素になる。狭い歩道のところに植えた時は小さかったが、生長して幹が大きくなり人が行違うのにも歩きにくい路線が少なからずあるので、そのようなところが優先される。
- 委員 使い分けしたらどうか。高木をあまり植えず、中木、低木など分けていけばいい

- のでは。また、根上がりの起こしやすい樹木をさけることも重要である。
- 事務局 樹種の選び方や植栽間隔は重要な要素になる。
- 委員 街路樹は大体カチカチの土壤に 60 cm四方の穴を掘っておいているだけの状態である。森や林と違い過酷な環境なので、空気や水を求めて根が上に伸びていくが、今は技術が発展しているので、もう少し深く掘るとか、車や人が上を歩いても大丈夫なくらい固いが深いところで根はきちんと生育できるといった工法があるので、木と人と車を両立させるならば、そういった技術を使う方法もある。
- あと、高木ではなくという話が出たのですが、今までの街路樹はどんなに狭い道路でも家にあたって高木を植えてきたが、そうではない街路樹のあり方もある。周りの環境に合わせて街路樹の有り無しを考えることが必要である。
- 事務局 街路樹のありかた検討の前に、外来種のナンキンハゼや倒木しやすい樹種、歩道幅員が狭い、根が波打っているという場所を選び先行して着手した。その際に、ナンキンハゼを抜いた後について、市の方から街路樹の無いパターン、植栽間隔を広げるパターン、低木中木に変更するパターンなど地元の方に提案し、そこは景観が寂しくなるということで樹種を変え間隔をあけて新たに植えた。周りの状況、地域の皆さんのご意見を聞きながら取り組まないといけないと感じている。
- 委員 環境問題にどう対応するのかということを見ると、高木をたくさん植えるのではなく、樹冠を大きくするような適切な管理をし、よりよい環境に資するような樹木にするという考え方もある。
- 委員 あまり間隔をあけすぎると、その間に低木なり植えると交通の面での危険性が出てくるのではないか。
- 委員 低木植栽の役割は防草、土留めなどもあるので、なくすというのは難しい。なくすと結局白いガードレールが無機質に並ぶだけになってしまう。
- 委員 あと、生き物が渡っていくという効果があるので、そういうことも考えるとやはり間隔をあけすぎるのは問題がある。
- 委員 景観の骨格になり繋がっていたり、生き物の住みかが繋がっていたりいろいろな役割がある。住みやすい環境になるためにも適切につないでいくことが大事である。
- ・資料 2-①～③全体を通して
- 委員 色々な事業に取り組んでいることを市民に知らせるようなプラットフォームはあるのか。
- 事務局 公園部局のインスタグラムがあるのでそこで情報発信している。
- 委員 そうなると、尼崎市のお知らせみたいにすると中々アクセスする人もいないと思う。それぞれのユーザーがどのような検索経路で情報にアクセスするのかという目線でお知らせできればいいと思う。
- 事務局 市のホームページだけではなかなか伝わらない。都市戦略推進担当では「うわさプロジェクト」という事業を実施している。工事中の仮囲いの壁に吹き出しで人

がしゃべっているような感じのものを貼って興味を引いている。阪神尼崎、小田南公園のような工事中のところで特に行っている。この事業は市全体で今後も続けていく予定である。

委員 あれはついつい読みたくなる。ユーザー、市民目線で何かこういうことがあるらしいということが書かれて結構読むかなと思う。

事務局 住宅政策でも使用しており問い合わせが増え、施策の方でも繋がるような効果が出てきていると感じている。

委員 消防局のインスタグラムでは、職員が顔を出してためになることをわかりやすく説明し、健康増進課のインスタグラムでは栄養についてストーリー性のある投稿をしている。公園部局も公園がこんなふうになるよということを職員の顔を出して発信すると親しみも沸くし、尼崎市がいいねとか、羨ましいとかが出てくるとファミリー層の転入にもつながり、尼崎市のイメージアップにもつながると思う。

委員 DX化のところだが、紙の方が一貫性があるって便利ということもあるので、ペーパーレスで行きましょうということだけがDX化ではないということが1点。あと遊具の件だが、遊具がきちんと整備されていても遊具の使い方がわからず怪我をすることもあるので、どういった遊具を置くことが安全なのか、子どもたちの運動能力をスタンダードに伸ばしていけるのかを考えて、新しい遊具を設置していくことが必要である。

委員 遊具は、アクティブと安全の両立も難しいし、インクルーシブで色々な個性を持った子供たちが一緒に遊べるというコミュニケーションの部分も入ってきたりして中々難しい。それこそ地域の方のお知恵を借りながら一緒に考えた方がいいかもしれない。

委員 みどりの里親プロジェクトという名称が市民に伝わりにくいのではないか。聞いてすぐわかるような名称を考えた方がいいのでは。

委員 神戸市で山林部だと高木が倒れてくる危険性があるので、最近では中木を植えて管理されている。

外来種のクビアカツヤカミキリが西宮市まで進入しているので尼崎市に来るのは時間の問題である。市の方もどう対応すべきか考えるべきである。

以 上